

# 最優先人材教育十自社便 265台の強みを生かす

## 食品物流の「品質」を考える

— 貴社の考える物流品質について聞かせてください。

加藤 やはり人が大事です。人材の教育に注力していくことは永遠のテーマです。そのために時間とお金がかかりますが、そこを惜んでいるようでは全面に代表される物流品質は担保されません。

当社ではドライバークャリアアップ制度を導入していま

す。従来から存在するゴールドドライバークャリアマスターを設けました。

これは各営業所がそれぞれ推薦して決めます。現場の熟練者がキャリアマスターで、指導者の象徴がゴールドドライバークャリアマスターで、職人タイプが前者、発信力のあるタイプが後者です。どちらが上でも下

でもありませんが、このような制度を交えて、できるだけドライバークャリアマスターのモチベーションを上げたいと考えています。

教育というのは上から単純に教えて伝わるものでもないもので、やはり同じ目線に立つことが大事だと思っています。

— 貴社はここ数年、外国人の活用に積極的ですが、現状はいかがですか。

加藤 現在、技能実習生が34人、留学生が200人在籍しています。また、当社の外国人正

社員は14人となりました。ベトナム人の彼らは一般的な日本人よりも非常に優秀です。当社としては基本的にハンディターミナル、マテハン（マテリアルハンドリング）、ピッキングなども彼らに数字で分かるようにしています。職人的な作業ではなく、外国人でも問題なく行える方法を考えています。

また、LINEの企業版のようないくつかの「グループウェア」を活用し、問題をリアルタイムで報告させています。当社の18拠点から毎日報告が入ってきますが、彼らの勉強にも役立っていると思います。また、年2回、本社にベトナム人の管理者を呼んで会議を行うなど、コミュニケーションを緊密に取っています。

— 最後に今後の方針を教えてください。

加藤 お客さまの変化が激しいので、その動きにいかに対応していかれるかを考えています。物流再編もあると思いますし、さまざまな外的環境に対応していくことが一番のテーマです。当社が仕掛ける時期でもないので静観していくつもりですが、リスクヘッジだけは常に考えていきます。

それから、われわれの業界も淘汰が始まっているので、当社としては高い物流品質をお客さまにさらに提供できるように取り組んでいきます。また、何となく当社には265台の自社便があるので、この強みを生かしながら、真っ先に選ばれる物流企業としてこの厳しい時代を勝ち抜いていきたいと思

います。